

『中央学術研究所紀要』第46号抜刷
平成29年11月30日発行

英国出張報告

—パーリ文献協会：ミャンマー写本のデジタル化研究—

西 康 友

〈出張報告〉

英国出張報告

—パーリ文献協会：ミャンマー写本のデジタル化研究—

西 康 友

1. 目 的
 2. 出張者
 3. 期 間
 4. 行 程
 5. 討 議
- 【謝 辞】

1. 目 的

本出張では、下記事項(1)(2)について、英国パーリ文献協会（The Pali Text Society, PTS¹）のルパート＝ゲシン会長、及びウイリアム＝プルット博士（出版担当責任者）との直接討議を目的とする。また、The British Library を訪問し、当該研究に関連した資料等を検討し、今後の研究動向を確認する。

- (1) 中央学術研究所は、2017年度に PTS 研究事業（英緬日三カ国連携事業）「ミャンマー僧院の仏教貝葉古写本・絵画資料のデジタル化研究」に助成を行なっている。カタログを検討・精査し、早期に公開すべき仏教写本群の選定とその序列を検討し、貝葉写本を撮影した。撮影データから PDF 形式のデジタル本を作成している。全写本は千冊近くのデジタル本にまとめられ、そのサイズは約500GBになる。PTS はその成果としての大規模なデータベースをトロント大学（カナダ）のウェブに掲載準備中である。
- (2) 中央学術研究所は2018年度以降「PTS 事業：『パーリ語辞典』²最終版群の完成研究助成」を検討している。これは PTS、逢坂雄美・仙台高等専門学校名誉教授か

¹ <http://www.palitext.com/> ほか K. R. Norman, “The Pali Text Society: achievements and aims” (K・R・ノーマン著、山崎守一訳注「パーリ聖典協会の実績と目的」、『中央学術研究所紀要』第16号、1987年、4-32)、——, “The present of Pali studies, and future tasks”, *the Bulletin of Chuo Academic Research Institute (Chuo Gakujutsu Kenkyujo Kiyo) Vol.23*, 1-20 (K・R・ノーマン著、山崎守一訳「パーリ研究の現状と今後の課題」、『中央学術研究所紀要』第24号、1995年、1-29)等を参照。

ら相談・依頼された事業である。その事業の目的・意義・期間などの具体的な内容について議論した。

2. 出張者

西康友（中央学術研究所主査）（同伴：逢坂雄美・仙台高等専門学校名誉教授：科研費・基盤Bによる出張）

3. 期間：

平成29年6月20日(火)～7月3日(月)（14日間）

4. 行程

| 日時 | 内容 |
|-------------------|---|
| 6月20日(火) | 前泊打合せ、準備等（羽田イン） |
| 21日(水) | 8：50 羽田国際空港発（BA008便） |
| | 12：25 Heathrow 空港着→ London Paddington ロンドン滞在：Pavilion Hotel 1泊 |
| 22日(木)－ 23日(金) | London Paddington → Bristol Temple Meads ブリストル滞在：Ibis Bristol Temple Meads Quay 2泊 ● University of BRISTOL 訪問 (1) ミャンマー僧院の仏教具葉古写本・絵画資料：PDF形式デジタル写本作成とウェブ発信・カタログ作成に関連して、PTSのゲシン会長・プルット博士と討議（→(1)討議内容） ● Circles in Chalh and Stone, ³ 及び Bristol Buddhist Centre ⁴ 訪問 (2) カタログ作成・Web発信に関連して、プルット博士と討議（→(2)討議内容） |
| | Bristol Temple Meads → London Paddington ロンドン滞在：The Belgrove Hotel 1泊 ● 資料・報告書作成、打合せ準備 |
| 25日(日)－ 26日(月) | ロンドン滞在：The Belgrove Hotel 2泊 ● British Library 訪問：ミャンマー所伝南方仏教史関連検討 |

² PTS版『パーリ語辞典』編纂の経緯については、以下を参照：K. R. Norman, “The Three Dictionaries” (K・R・ノーマン著、山崎守一訳注「三つのパーリ語辞典」、『中央学術研究所紀要』第17号、90-116)。ほか本稿注7を参照。

³ <http://www.stone-circles.org.uk/stone/avebury.htm>

⁴ <http://bristol-buddhist-centre.org/>

| | |
|-------------------|--|
| 27日(火)– 28日(水) | London Kings Cross → Cambridge ● Darwin College (The University of Cambridge) 訪問 (3) 『パーリ語辞典』執筆者マーガレット＝コーン博士と研究討議 (→(3)討議内容) ● The Fitzwilliam Museum ⁵ 、および The Association for Roman Archaeology ⁶ を訪問して、ガンダーラ美術・仏像を実見 ケンブリッジ滞在：Fenners Hotel – B&B 2泊 |
| 29日(木)– 30日(金) | Cambridge Christ's College → London Kings Cross ● British Library 訪問：資料検討・報告書作成、打合せ準備 ロンドン滞在：Swinton Hotel 2泊 |
| 7月1日(土) | ● British Museum 訪問：インド・イラン古代遺跡等の実見 (4) <i>Philosophica Asiatica</i> 研究内容に関連して、プルット博士と討議 (→(4)討議内容) ロンドン滞在：Swinton Hotel 1泊 |
| 2日(日) | London Kings Cross → Heathrow Airport 11：45 Heathrow 発 (BA007；機中泊) |
| 3日(月) | 6：45 羽田国際空港着 |

5. 討 議

(1) 討議内容

日 時：平成29年6月22日(木) 10：00–17：00

場 所：ブリストル大学 ルパート＝ゲシン教授室

参加者：ルパート・ゲシン (PTS 会長)、ウイリアム・プルット (PTS 出版理事)、逢坂雄美 (仙台高等専門学校名誉教授)、西康友 (主査)

- 「ミャンマー僧院の仏教貝葉古写本・絵画資料のデジタル化研究」助成最終報告会は2017年11月22日(水)、中央学術研究所大会議室の午後に開催決定。
- 上記報告会にはウイリアム＝プルット・研究代表者が来日予定 (平成29年11月21日–24日の4日間)。
- 上記助成の支出決算報告書の作成説明 (「クドードゥ・パゴダ石碑修復・保存事業助成、及び碑文仏典研究」助成に準じる決算報告)をした。
- PTS、逢坂先生から相談・依頼された「英国パーリ文献協会事業：『パーリ語辞典』最終版群の完成」について討議をした。
- 「ミャンマー僧院の仏教貝葉古写本・絵画資料のデジタル化研究」助成報告はプルット氏が25ページ程度にまとめ、それを *Philosophica Asiatica* Vol. IV (2017年12月発行予定) に掲載するとの合意がなされた。

⁵ <http://www.fitzmuseum.cam.ac.uk/>

⁶ <http://www.associationromanarchaeology.org/index.htm>

(2) 討議内容

日 時：平成29年6月23日(金) 11:30-17:00

場 所：Circles in Chalk and Stone 一帯

参加者：ウィリアム・プルット (PTS出版理事)、逢坂雄美 (仙台高等専門学校名誉教授)、西康友 (主査)

- プルット博士・逢坂等が推進する「ミャンマー僧院の仏教員葉古写本・絵画資料のデジタル化研究」の研究成果をトロント大学 Web サイトに掲載準備中である。
- プルット博士への Christoph Emmrich 准教授 (トロント大学) のメール内容検討 (Web サイト掲載謝辞等：プルット博士作成 (逢坂校訂) を参照されたい)。
- Christoph Emmrich 准教授は *Philosophica Asiatica Vol. III* 『梵文維摩経語彙索引』の共著者アンソニー・スコットの指導教官で、国際仏教学会トロント大会の大会実行委員長である。
- 今後の研究の進捗と方向性の確認をした。

(3) 討議内容

日 時：平成29年6月26日(月) 14:30-16:00

場 所：コーン博士自宅

参加者：マーガレット・コーン博士 (元ダーウィン・カレッジ副学長/PTS 研究員)、逢坂雄美 (仙台高等専門学校名誉教授)、西康友 (主査)

- マーガレット・コーン博士は英国パーリ文献協会版『パーリ語辞典』(A-N, I:2001, II:2010) の著者である。
- PTS 版『パーリ語辞典』について：コーン博士はケンブリッジ大学大学院博士課程在学中に K. R. ノーマン博士の依頼により、1984年から『パーリ語辞典』編纂を手がけてきた⁷ (約32年間の辞書編纂)。
- これまでの辞典編纂のご苦労や研究方法などを教えていただくことができた。
- ここ数年の間にコーン博士はPTSより『パーリ語辞典』IIIを刊行予定である (当該辞典はIV巻で完成)。

(4) 討議内容

日 時：平成29年7月1日(土) 13:30-17:00

場 所：大英図書館ロビー

⁷ M. Cone, "A New Pali-English Dictionary", *the bulletin of Chuo Academic Research Institute (Chuo Gaku-jutsu Kenkyujo Kiyō) Vol.29*, 2-15 (マーガレット・コーン著、山崎守一訳註「新パ英辞典」、『中央学術研究所紀要』第30号, 2-25)。

参加者：ウィリアム・プルット（PTS出版理事）、逢坂雄美（仙台高等専門学校名誉教授）、西康友（主査）

- 「ミャンマー僧院の仏教貝葉古写本・絵画資料のデジタル化研究」研究成果（大規模データベース）のトロント大学 Web サイト掲載内容について討議した。
- 今後のミャンマー僧院の仏教貝葉古写本調査の方針と動向を検討・議論した。
- Web サイトにデータベース公開する際に、研究事業「ミャンマー僧院の仏教貝葉古写本・絵画資料のデジタル化研究」の目的・背景等についてプルット博士作成（逢坂校訂）の下記文書（抜粋：最初と最後の節・付録以外はタイトルのみで記述は割愛。別途他の機会に掲載予定）を掲載する予定である。